

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2005年度～2007年度

課題番号：17520211

研究課題名（和文） ケンブリッジ大学における学生演劇文化と地方人脈の研究

研究課題名（英文） A Study of Drama, Culture and Local Connections in Cambridge University

研究代表者

井出 新 (IDE, ARATA)

フェリス女学院大学文学部・教授

研究者番号 30193460

研究成果の概要：16世紀イングランドにおける商業演劇の興隆に、大学出身の知識人たちが果たした大きな役割は、これまで多くの研究者によって指摘されてきたものの、彼らが学生時代に親しんだ大学演劇それ自体についての研究はほとんど行われてこなかった。そこで本研究では、商業演劇の興隆に大きな影響を与えた劇作家ロバート・グリーンとクリストファー・マーロウに焦点を当て、(1)彼らに関わっていた学寮内及び他学寮との緊密な交流関係を明らかにしつつ、(2)彼らが1580年代前後のケンブリッジ大学における演劇文化に深く関わり、(3)学生時代に築いた人脈を伝手にロンドン演劇界に繋がっていった様子や、(4)学生演劇の文化をロンドンの大衆演劇文化に接ぎ木した様子を具体的に明らかにした。それによって、ケンブリッジ大学における学生演劇の文化的・演劇史的な意義を、歴史的史料から再構築した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	1,300,000	0	1,300,000
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	270,000	3,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米英語圏文学

キーワード：英米文学

1. 研究開始当初の背景

16世紀におけるロンドンの商業演劇興

隆に大学出身の知識人たちが果たした大きな役割は、これまで多くの研究者によって指

摘されてきたが、彼らが学生時代に親しんだ大学演劇自体の研究は、G. C. Moore-Smith や F. S. Boas の概括的な研究以来、ほとんど行われてこなかった。ようやく近年になって Alan E. Nelson が Records of Early English Drama の史料集で、ケンブリッジにおける演劇上演の史料を編纂し、大学演劇の具体像が立ち現れたと言えよう。しかしそれらの史料から大学演劇の文化史・演劇史的意義について突っ込んだ研究は当初行なわれてはいなかったし、ましてや地方史的な側面からのアプローチに至っては皆無であった。本研究は、そういう演劇史研究の空白を補うべく始められた。

2. 研究の目的

そもそも大学という社会は、特定の地方や学校から集まった、関わり合いの緊密な多くの集団によって形成されている。したがって、大学演劇も学寮集団或いは同郷出身者の集団によって創出され、運営されるものであり、そこには必然的に閉鎖的な大学社会の中で彼らの築いていた庇護関係や敵対関係が反映されることになる。このような考え方をすれば、学生時代から演劇に手を染めていたと思われる劇作家たちの活動に新しい光が当てられることになろう。つまり大学演劇とは、都市や地方の政治・宗教イデオロギーがせめぎ合う場所となり、そのような学生演劇の文化を、大学出の劇作家たちはロンドンの大衆演劇文化に接ぎ木したということになる。こういった様子を史料によって明らかにし、大学演劇のみならず、大学演劇とロンドンの商業演劇との関わりにも新しい光を当てることがこの研究の目的である。

3. 研究の方法

次の3つの側面から史料調査及び分析を

行った。

(1) 1570年代初頭から1590年代初頭までにケンブリッジで上演された演劇、或いはケンブリッジ出身学生が執筆した演劇を史料として射程に収め、Thomas Nashe 及び Christopher Marlowe を中心に、彼らが影響を受けた（もしくは与えた）大学演劇の作家達、すなわち Richard Legge, William Alabaster, Edward Forcett の作品分析を行った。

(2) Thomas Nashe 及び Christopher Marlowe が築いていた学寮内、或いは他学寮の同郷出身者との交友関係を洗い出し、彼らの演劇的環境を再構築するよう調査を行った。具体的にはケンブリッジ大学の古文書館において、以下の手稿本史料に関する調査を行った。

① Cambridge University Archive

- Utinam (CUA, Collect. Admin. 13; 1550-75)
- Buckle Book (CUA, Collect. Admin. 6a; 1577-88)
- Acta Curiae (CUA, V.C.Ct. I.3; 1595-7)

以上の手稿本は大学副学長裁判所における裁判記録であり、教員・学生を巡る訴訟が数多く含まれている。学生達の交友関係を把握するには不可欠な史料である。

② St. John's College Archives

- SB4.1; 1555-1575
- SB4.2; 1575-1600

以上の手稿本は80年代から90年代にかけて学生演劇の発信地となった St. John's College の学寮関係史料であり、Thomas Nashe の演劇活動及び学生人脈を明らかにするためには不可欠な史料である。

(3) 地方人脈が大学の文化的環境の中でどのような役割を果たしていたかを様々な側

面から明らかにするために、地方史（特にイースト・アングリア地方及びケント地方）に関する第二次史料を渉猟した。またノリッジの Norfolk Record Office において、Mayor's Court Book の史料調査を行った。

4. 研究成果

当初の研究計画は、ケンブリッジ大学における学生演劇の文化史的・演劇史的な意義を、Thomas Nashe と Christopher Marlowe に焦点を当て、(1)彼らが関わっていた学寮内及び他学寮との緊密な交流関係を明らかにしつつ、(2)彼らが 1580 年代前後のケンブリッジ大学における演劇文化に深く関わり、(3)学生時代に築いた人脈を伝手にロンドン演劇界に繋がっていった様子や、(4)学生演劇の文化をロンドンの商業演劇に接ぎ木した様子を具体的に明らかにすること、であった。研究実施による成果としては、その全体的な枠組みを描くことができたことが挙げられよう。

(1)については“Christopher Marlowe, William Austen and the Community of Corpus Christi College,” *Studies in Philology*, 107.2 (2007)で示したように、商業演劇興隆に大きな影響を与えた劇作家 Christopher Marlowe や Thomas Nashe に焦点を当て、彼らの学寮内及び他学寮との緊密な交流関係を明らかにすることができた。また同時に Robert Greene や Nathaniel Woodes、Gabriel Harvey など、研究計画を立てた当初はあまり視野に入っていなかった大学出身作家の重要性や、ケンブリッジとオクスフォードの大学演劇におけるプロテスタント武闘派の政治イデオロギーの重要性が明らかとなったことも大きな研究成果である。とりわけケンブリッジ大学と距離的にも人脈的にも非常に関係が深いノリッジ

という地方都市に焦点をあて、ノリッジ出身の Robert Greene と Nathaniel Woodes という大学出身の劇作家と人脈的な繋がりを追った結果、彼らがノリッジ市の市会議員の庇護を受けて大学進学し、或いは就職先を斡旋されるなどの恩恵を得ていたことが判明した。特に Robert Greene に関する調査で、彼の出自や大学進学の経緯は今まではっきりとしなかったが、今回の史料調査で出自だけでなく市議会議員の庇護のもとに大学進学をした可能性が裏付けられたことは大きな成果であった。

(2)、(3)、(4)については「パルナッソスからロンドンへ：1580年代における大学と大衆演劇」(2007)で示したように、彼らが1580年代前後のケンブリッジ大学における演劇文化に深く関わりながら、学生演劇の文化をロンドンの大衆演劇文化に接ぎ木した様子がある程度、具体的に明らかにすることができた。つまり、ロンドンに上京したばかりのナッシュは、大学での喧しい宗教論争の延長戦とも言うべきハーヴェイとの毒舌合戦に身を投じて言葉の暴力による戦闘に参戦し、一方マーロウは、大学における学問的、宗教的対立から生まれる身体や精神への暴力行為を、グロテスクな演劇的体験へと昇華させたが、どちらにも共通しているのは、論争熱によって党派心を煽られる大学社会の文化的環境が、ロンドンにおける彼らの文筆活動に影を落とし、大衆娯楽的な展開を見せているという事実であり、その知見は、この研究における大きな成果であろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

① 井出新、「パルナッソスからロンドンへ：

1580年代における大学と大衆演劇」、
『シェイクスピアとその時代を読む』、研
究社、3-24 ページ、2007、査読有。

- ② Arata Ide, “Christopher Marlowe, William Austen and the Community of Corpus Christi College,” *Studies in Philology*, Vol. 107.2. 56-81, 2007, 査読有。
- ③ Arata Ide, “Robert Greene *Nordovicensis*, the Saddler's Son,” *Notes & Queries* Vol. 53.4, 432-36, 2006, 査読有。
- ④ Arata Ide, “*The Jew of Malta* and the Diabolic Power of Theatrics in the 1580s.,” *Studies in English Literature 1500-1900*, Vol. 47.2, 257-79, 2006, 査読有。

[学会発表] (計2件)

- ① 「ピューリタニズムとナショナリズム—初期近代イギリス文学を中心に」、2007. 6、日本ピューリタニズム学会第二回研究大会 (日本ピューリタニズム学会・聖学院大学)
- ② 「殉教史とエリザベス朝演劇」、2005. 10、第44回シェイクスピア学会 (日本シェイクスピア協会・日本女子大学)。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井出 新 (Ide Arata)

フェリス女学院大学・文学部・教授

研究者番号：30193460